

「ゆるぎない成長」を実現し、 持続可能な社会の構築に貢献します。



古河電気工業株式会社
代表取締役社長

柴田 光義

— 今般発表された2020中期経営計画の説明資料のタイトルが「ゆるぎない成長の実現」となっていますが、ここで使われている「ゆるぎない」という言葉の中には、会社の業績だけでなく、社会的責任を果たすことで事業存続の可能性を持ち続ける、いわゆるサステナビリティの意味も含まれていると理解して良いでしょうか？

はい、その通りです。私たちは健全な事業活動続けることで利益を上げて、ステークホルダーの皆様にご貢献するだけでなく、地球規模での自然環境や社会の持続可能性のために得意分野で問題解決に寄与し、より良い社会を築くという責任があります。このため、グローバルに事業を成長させて行く中で、日頃から、多様化するステークホルダーへの貢献とともに持続可能性のための問題解決についてグローバルに考えています。

— では、その成長のために中期経営計画で上げられている3つの施策として「事業の強化と変革」「グローバル市場での拡販推進」「新事業の開拓加速」がありますが、この中でサステナビリティとの結びつきを特に意識されている施策はどれでしょうか？

いずれの施策にも、自然環境や社会の持続可能性を意識した製品やサービスが数多く含まれています。それぞれの施策に関わる製品の一部をご紹介します。「事業の強化と変革」の中には、スマートインフラとして浮体式洋上風力発電を支えるライザーケーブルや、超電導フライホイール蓄電システムを支える高温超電導マグネット、「グローバル市場での拡販推進」の中には、通信インフラをスマート化することでIoTに貢献するアクティブ光製品、「新事業の開拓加速」の中には、自動車を軽量化して燃費を高めることでCO₂削減に貢献するアルミワイヤハーネスなどがあります。これらを含め多くの製品で、当社の強みである素材力によって、インフラ、電装エレクトロニクス、機能製品などの分野で、持続可能な社会の構築に貢献しています。

— そうした施策を支える経営基盤としては、どのような点を強化されていますか？

近年では環境・社会・企業統治を重視することが企業の持続的な成長につながると言われていますが、このESG (Environment, Social, Governance) の観点も含めお聞かせください。

まず、コーポレートガバナンスを強化し、取締役会の運営を継続的に改善して、攻めと守りのバランスのとれたガバナンスを遂行しています。また、グループの全従業員に当社グループ理念の浸透を図り、共通の価値観に則って行動することで、社

会やお客様の期待と信頼に応えられる人材の育成を図っています。昨年度より、私自身も含めて全員が自主的にワークスタイルを変革し、組織風土改革に結びつけることで、会社の持続的成長と個々人の生活の充実を目指す「働き方改革」の活動をスタートさせました。また、当社グループは「多様な人材を活かし、創造的で活力あふれる企業グループの実現」を経営理念に掲げており、グループ・グローバル経営を進める上で多様な人材が活躍できる環境・風土づくりが不可欠と考え、かねてよりダイバーシティー・マネジメントに注力しています。特に女性活躍推進については、定量的目標を掲げて取り組みを加速しています。

— 最後に、本レポートの読者の方に、社長からのメッセージをお願いします。

当社グループでは、役員および従業員がとるべき基本的行動を「古河電工グループ CSR行動規範」として定め、安全・品質・コンプライアンスに対する意識を高め、実践することを求めています。その理由は、事業活動を根底で支えているのは、安全・品質・コンプライアンスに対する従業員一人ひとりの意識であるからです。今後も引き続き、行動規範の実践を含めて組織基盤の状況をグローバルな視野でモニタリングしながら、事業活動を通じて世界が抱える課題の解決に寄与し、より多くの社会的価値を創造できるよう注力していきたいと考えています。

最後になりましたが、是非一人でも多くの方に本レポートをご一読いただき、当社をより広く知っていただければと願っております。

ありがとうございました。